

## セキュアOSに関する調査研究会 第7回 議事要旨

【日時】 平成16年3月24日(木)10時～12時

【場所】 経済産業省別館10階 1014会議室

### 【出席者】

〔研究会構成員(敬称略)〕

村岡座長、有田構成員(山口代理)、石井構成員、泉澤構成員、斎構成員、今井構成員、後藤構成員、阪田構成員、佐藤構成員、高澤構成員、高橋構成員、田中構成員、寺本構成員、中尾構成員、中上構成員、東構成員、平野構成員、山田構成員、脇構成員

〔総務省〕

鈴木政策統括官、桜井参事官、野津情報流通振興課長、武田情報セキュリティ対策室長、赤阪情報流通振興課長補佐、高村情報セキュリティ対策室長補佐

(オブザーバー)

上田情報システム企画官

### 【配布資料】

資料1 セキュアOSに関する調査研究会 第6回 議事要旨(案)

資料2 セキュアOSに関する調査研究会 報告書 概要版(案)

資料3 セキュアOSに関する調査研究会 報告書(案)

### 【議事概要】

1. 開会
2. 配布資料確認
3. 前回議事録の確認
4. 議事概要

事務局より、資料2「報告書概要版(案)」及び資料3「報告書(案)」について説明を行った後、次のとおり質疑・討議があった。

(実装する機能イメージについて)

- 資料2「概要版(案)」の6ページに、情報システムに実装する機能イメージとして、「暗号技術を利用した認証に対応できるか」が盛り込まれているが、例えば IC カードや生体認証を使っている場合には基本的に暗号技術は使われているので、認証に利用される暗号技術の役割を踏まえながらより具体的に記述したほうが良い。

(OS を中心とした情報システム関連全般の動向について)

- 資料2「概要版(案)」の3ページ欄外に、「OS に脆弱性があると上位のアプリケーションをいかにセキュアに構築しても意味が無く、OS の選択や維持管理に留意が必要」という記述があるが、いまの一般的なセキュリティの考え方では、OS だけではなく、運用体制なども含めた多層的な防御でシステムを守っていくという方向性があることから、OS がだめだと全てがだめという表現は避けるべき。
- OS とアプリケーションがまったく対等ではないことを踏まえると、資料2「概要版(案)」の3ページ欄外の表現は、「不十分である」とすることが適当。

(業務サーバ、フロントエンドサーバ、クライアント端末について)

- 資料2「概要版(案)」8ページに、業務用サーバに対するまとめとして、「クライアントとの接続性、フロントエンドサーバとの接続性のバランス」が記載されているが、システムを構築する側としては具体的にどのようなことを意識すればよいか。
- それぞれのサーバ等における状況を考えると、フロントエンドサーバは、インターネットに常に接続され、様々な脅威にさらされている状態、業務サーバは、業務で取り扱う大切なデータが格納されている状態、クライアント端末は業務サーバとの間での情報のやりとりを行います。これらを踏まえて情報システムをどういった形で構成するのかというもの。
- クライアント端末の位置づけが、インターネットクライアントなのか、LAN に組み込まれているクライアントなのかというところが分かりづらくなっているので、資料2「概要版(案)」において後者のLAN に組み込まれているクライアントであることを明確にするため、資料3「報告書(案)」39ページにあるような構成図を挿入することが適当。

(その他)

- 資料3「報告書(案)」40ページ以降に、「実装する機能イメージのチェック」が記載されている。これらの項目は、業務上の必要性を考えて選択するものであるが、今後、報告書を読んだ人が、これら項目の全てにチェックを入れられないといけないと思われるかも知れない。今後の報告書の使われ方という観点から考えて、明確

に全部チェックするのではなく、しっかりした理由を立てたうえであれば、チェック項目から外すことが出来る旨の記述を追加することが適当。

## **5 . その他**

今回出された意見等に基づき、資料2「概要版(案)」及び資料3「報告書(案)」の内容を修正することとし、4月にその内容を公表することとなった。

## **6 . 閉会**